



宇宙ヤクスギとは

宇宙ヤクスギは、平成12年にスペースシャトル「エンデバー号」に搭乗した宇宙飛行士の毛利衛さんと共に宇宙を旅した屋久杉の種子1,180粒の中から5本が成長し「宇宙ヤクスギ」と命名されました。

その5本のうち1本が屋久島町屋久杉自然館に寄贈されました。

今回、記念植樹に使った「宇宙ヤクスギ」は、屋久杉自然館で成長した「宇宙ヤクスギ」の枝を採穂し、挿し木したものです。

屋久島地杉とは

屋久杉の種の苗木や接ぎ木から植林された杉を「屋久島地杉」と呼びます。

屋久島は、日本一雨が多いために湿度が高く、台風や寒暖差も多い過酷な環境であるため、屋久島地杉は、本土の杉よりも強度や耐候性、防蟻・防ダニ効果があるのが特徴です。



令和3年3月に開催された「命を育む屋久島地杉苗譲受式」で苗を運ぶ一口森林技術官



杉並木公園内にある屋久島の森で宇宙ヤクスギの植樹が行われた



屋久島森林管理署から譲り受けた苗は1年間杉並木公園で育てられた



後藤町長から屋久島町の荒木町長らに感謝状が贈られた

豊後街道の杉並木の由来

豊臣秀吉の天下統一後、天正16年(1588年)に豊後街道を通して肥後に入国した加藤清正は、豊後(大分)から肥後(熊本)までを結ぶ九州を横断する街道として、道幅を広げ、杉を植えるなど、大規模な整備を行いました。このときに屋久杉を使ったと伝えられています。

加藤清正の後を継いだ細川氏も、この道を参勤交代に利用し、杉を補植するなど街道の維持に力を注ぎました。

杉並木は、当初、立田口(熊本市坪井)から大津町の方里ヶ谷(大津町堀ヶ谷)まで、大津の街並みや桜馬場などを除いて約20^{キロ}の長さになたって植えられました。現在では、熊本市竜田町から菊陽町入道水までの約11^{キロ}に残っています。



屋久島の森には

「宇宙ヤクスギ」以外にもこれまで屋久島町から寄贈いただいた希少な樹木が植樹されています。来園の際は、ぜひお立ち寄りください。



豊肥本線沿いに桜、菜の花と杉並木



菊陽杉並木と国鉄(昭和35年頃)

このほか、来賓の皆さんから、「菊陽町を訪れる人々が、この杉並木を見て、当時の歴史に思いを馳せることができることは、大変素晴らしいことだと思います」、「植樹祭が、豊かな自然と未来を担う子どもたちの心を育み、過去から現在、そして未来をつなぐ新しい道となっていくものと確信しています」などの言葉をいただきました。

また、本町の姉妹都市である屋久島町の荒木町長は、「菊陽町と屋久島町の交流の原点ともいえる菊陽杉並木公園に、新たな屋久島の生命が育まれます。先祖から現在、そして未来へと継承される記念すべき日であり、これまで以上に友好の絆が深化されることを願います」と祝辞を述べました。

菊陽町を東西に横切る豊後街道(旧国道57号線)沿いには、400年以上も前から大切に引き継がれてきた杉並木があります。これまでに台風による倒木などにより、杉並木の存続が危ぶまれることもありましたが、姉妹都市である屋久島町から譲り受けた苗木などを補植しながら、現在まで守り、つないできました。

豊後街道菊陽杉並木植樹祭を開催

「第38回全国都市緑化くまもとフェア」パートナー事業

豊後街道菊陽杉並木植樹祭を3月19日、菊陽杉並木公園内で開催しました。

参加者は、姉妹都市である屋久島町長をはじめとした関係機関・団体の代表など51人。

植樹祭では、菊陽杉並木公園内の「屋久島の森」に屋久島町から譲り受けた「宇宙ヤクスギ」2本を記念植樹しました。

また、豊後街道(丁R豊肥本線沿い)の杉並木には、地域住民、菊陽町造園協会、町職員が協力して譲り受けた屋久島地杉苗木を補植しました。主催者代表の後藤町長は、式典で「この植樹祭を通じて、多くの人が緑の魅力を再発見する機会となればSDGsの理念にもつながると考えています。引き続き、杉が取り持つ縁を大事にし、関係する皆様との友好を深めながら、豊後街道菊陽杉並木の保存に取り組んでまいります」と挨拶しました。